

「赤磐医師会医療的緊急提言」

(住民の皆様へのお願いおよび行政・学校長への小中学校再開時期の慎重な判断のお願い)

令和2年4月14日

公益社団法人赤磐医師会 会長 滝澤貴昭

公益社団法人赤磐医師会 学校保健担当理事 小坂恒徳・光島 猛・中西 豊・上野芳樹

全国的に新型コロナウイルス COVID-19 の感染が蔓延し、毎週感染者数が倍に増えています。先週は日本でも緊急事態宣言が発令され、特に人口の集中した都市圏では厳しい外出自粛要請や休校体制が敷かれています。岡山県内でも、ついに連日のように感染者が報告されるようになり、先週は赤磐市内でも発生が確認されたことは、マスコミ報道にてご承知のことと存じます。赤磐の事例は、保健所と医療機関の連携により、濃厚接触者を出すことなく市外の医療機関に入院されました。ご本人の節度ある行動と、初期対応をした診療所や医療機関での適切な検査にて、幸い濃厚接触者を出すことなく、市外の感染症専門病棟に入院されました。また赤磐医師会圏域では岡山市東区の大学職員にも感染が確認され、大学の敷地内立ち入り禁止措置が取られたことを知り、我々の身近にいつ感染者が出ていても不思議ではない状況となってきました。よりいっそう身を引き締める必要性を感じています。住民の皆様には、赤磐はまだ大丈夫などと決して油断されないよう、外出や集会、夜間外食の自粛に努めていただき、また三密となる状況を避けていただくよう強くお願い申し上げます。日本が再生できるかどうかは我々国民ひとりひとりの行動にかかっています。医師や医療スタッフは、一人でも感染者ができれば自医院や自病院の長期閉鎖あるいは診療制限が余儀なくされると考え、節度を持った行動を心がけています。赤磐市では、山陽地域を除き、内科小児科ともに医療過疎地域です。山陽地域にあっても、住民の健康のためには自身にも不安を抱えながら命がけで日々の診療にあたっている高齢の医師たちも多くおります。また急性疾患や救急車に対応でき、入院できる病院は医師会病院だけです。しかし医師会病院には感染症に対応できる病床は2床しかなく、また感染症専門医や集中治療専門医は在籍していません。もし赤磐地域で感染者数が急増すれば、医師会病院の一部急性期病棟を新型コロナ感染者の専用病棟に転換せねばならず、その際には、外来診療の大幅な制限や閉鎖、予定手術の延期や救急車・急患の受け入れをお断りする事態になりかねません。

そのような現状に我々医師会員は、強い危機意識を持っており、今後の数週間程度の対応によっては、あっという間に社会崩壊・医療崩壊になりかねない重要な時期と考えています。まず住民の方が、ご自身やご家族に、この病気を疑われた際には、決して飛び込みで身近な医療機関を受診しないで、保健所に電話相談し、帰国者接触者外来の受診について相談してください。やむを得ず、クリニックや病院に直接受診された際には、自家用車などに留まっていただき、医院へ入る前に必ず携帯電話などで受診した医療機関の医師やスタッフと相談し、他の外来患者様とは隔離された導線でご診察を受けてください。必ずマスクを着用してください。クリニックによっては、自家用車の中に留まっていただいたままで、医師が診察させていただくこともありうることをご了承ください。休日当番医での診察では、とくに困難が予想されます。当番医のクリニックが感染のクラスター場所となり、当日に別の病気で受診された患者様にもうつしてしまう恐れがあります。かかりつけの患者様以外で、初めてそのクリニックを受診された場合には、当然ながら受

付から診察、検査まで長時間を必要とする可能性があります。その際に、他の受診患者様と濃厚接触にならないよう、マスクの着用と、人との距離を十分に保ってください。石鹸での手洗いやアルコールによる手指消毒をしていただくようお願い申し上げます。体調に余裕があればあわてて休日当番医を受診せず時間的に余裕があれば、保健所に電話相談のうえ、平日に医療機関を受診していただくことをお勧めします。受診することにより自らが罹患するリスクも今は考えるべき時期です。医師やスタッフが、防護服や眼の保護フィルムと特殊なマスクを装着して診療にあたる可能性があります、驚かないでください。医療従事者が患者様から感染する確率は少なからずあり、その医療従事者を介して他の患者様に感染を拡げてしまう恐れがありますし、その医療従事者自身にも生命の危険が及びます。備前保健所東備支所、岡山市保健所職員の方々は日夜奮闘しておられますが、なにぶん本来の専門職員数が少なく、一方で電話の相談件数や検体検査数が増え続けておりますので、保健所の職員の方々へのご配慮もよろしくお願いいたします。

小学校・中学校の再開時期としては、緊急事態宣言の開ける5月7日以後に延期されるよう強く要望いたします。現在、小中学校での集団感染は報告されていませんが、早めの全国的休校により防げた可能性が高いと考えられています。また春は県外・市外からの転入者の多い時期であり、さらに全国的にも地域的にも感染者数が急増します。今後の見通しが不明な現段階での再開によって、もし複数の感染児童生徒が出現した場合には、同居あるいは近隣の高齢者の生命に危険を及ぼすおそれが懸念され、また前述のような理由により赤磐市ならびに周辺の医療機関は、瞬間に医療崩壊を起こしかねません。学校再会を待ちわびているお子様方や保護者の皆様のお気持ちは十分理解しているつもりですし、また給食の大切さや、集団行動により養われる社会性の獲得など、学業以外でも大切な場所であることも認識しています。しかし、夏休みまで再開できないような事態にはならないと期待しておりますが、これからの数週間を我慢していただくことがとても大切であると考えている次第です。

繰り返しになりますが赤磐はまだ大丈夫などと決して思わないで下さい。未曾有の被害にならないように行政、教育機関の英断が必要です。再開されたとしても午前中の短時間での授業と給食のみにて帰宅する、あるいは、児童生徒数の多い学校ではグループ分けをして隔日登校を選択していただくなどの配慮をお願いいたします。内科・小児科・耳鼻咽喉科・眼科などの学校健診は、例年6月末までに行うよう定められていますが、文部科学省からは今年度に限り、年度内に施行できればよいとの通達が出されています。学校健診が三密になりやすいことと、とくに耳鼻咽喉科健診では唾液飛沫などにより、医師および医師を介する児童生徒への感染拡大が懸念されています。赤磐医師会は、岡山市医師会・岡山市内医師会連合会と複数回の協議を重ね、足並みをそろえて、新型コロナ収束後に学校健診を施行させていただくことといたしました。保護者の皆様・関係者の皆様にはご理解を賜りますようお願い申し上げます。